

県立こども病院 地域医療連携室だより

第 28 号

発行日：平成 19 年 3 月 10 日

発行責任 小林繁一

編集：地域医療連携室

〒420-8660 静岡市葵区漆山 860

TEL：054-247-6251(代表)

TEL：054-247-6288(直通)

FAX：054-247-5688(直通)

循環器科

心房中隔欠損に対するカテーテル治療を始めました

先天性心疾患のなかでも頻度の高い、「心房中隔欠損症」は、従来開胸して人工心肺を使用する手術でしか治療できなかった病気ですが、近年諸外国では開胸手術でなく、カテーテル治療によって非常に少ない体への負担で根治する方法が主流になりつつあります。

このカテーテル治療を行うための「アンプラッツァー心房中隔欠損閉鎖セット」が、2006年4月より本邦でも厚生労働省から保険認可されました。

それに伴い、カテーテルによる経皮的心房中隔欠損閉鎖術が、静岡県立こども病院を含む全国10施設で施設認定され、厳しい審査をクリアした認定施設・医師においてのみこの治療が可能となりました。

このカテーテル治療の適応決定のためには、主に「経食道心エコー検査」によって、心房中隔欠損の孔の大きさや、開いている位置を事前に検査して調べておくことが重要で、患者様によっては従来から行っている開胸手術の方がより安全で確実な場合があります。

この検査は、治療を実施する医師による厳密な診断を要し、また患者様にとっては苦痛を伴います。したがって、当院では原則として一度入院して頂いた上、麻酔科の協力により苦痛を感じることなく検査を受けて頂きます。その結果でカテーテル治療と開胸手術とどちらが適切か十分に相談させて頂くことにしています。

受診希望の患者様がいらっしゃれば、当院地域連携室（循環器科 小野 安生 宛）まで紹介状をご送付下さい。

【ご紹介の目安】

国内では、通常体重 15kg 以上(3 歳以上)が治療の目安とされています。

他の病気を合併するなどして成長障害がみられ、欠損孔の閉鎖が優先される場合には、10kg 以上のお子さんも治療の対象になります。

一方、開心術の場合も、体重 10~15kg 以上で「完全無輸血手術」の可能性が非常に高くなり、20kg 以下の幼児ですと、胸骨が柔らかいため、胸の切開の傷が小さな「低侵襲手術」の可能性が高くなります。

したがって、幼児期以前に心房中隔欠損が見つかった患児には、2 歳以降、体重 10kg 台で、カテーテル治療か開心術かどちらの治療が適切か選択するための、精密検査をお受けになることを勧めています（もちろんそれ以降でも検査・治療をさせて頂いています）。

